

2014年3月期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：2013年（暦年）において、半導体製造装置のコーターデベロッパーがシェアを伸ばしたが、今後も期待できるか？

A：お客さまからの評価結果が良好で、最先端のプロセスで採用されたことを機に、大幅な売上増加となり、シェアが上昇しました。競争が激しい中ではありますが、今後もさらなるシェアアップを目指していきます。

Q：今期（2015年3月期）の固定費の見通しは？

A：2014年3月期に比べて増加を見込んでいます。その主な要因は、既存事業での製品競争力強化に加え、新規領域での早期事業化に向けた研究開発費、償却方法の変更などに伴う減価償却費、および、人件費の増加などです。これらの固定費の増加に対し、変動費の削減などを進め、収益拡大を図っていきます。

Q：2015年3月期業績予想における為替感応度はどれほどか？

A：当社の場合、輸出比率が高い割には、円建取引が多いため、感応度は低く、2015年3月期（通期予想）で次のとおりです。

- ・対USドル：1円の円安になれば、営業利益が約1億円増加
- ・対ユーロ：1円の円安になれば、営業利益で約4,000万円増加

Q：持株会社体制に変更する目的は？

A：中期3カ年経営計画「Challenge2016」の達成、および、さらなる成長が目的です。そのため、次の4点を実行してまいります。

- ① 事業執行における責任と権限の明確化
- ② スピード感を持った経営体制の構築
- ③ 市場特性に応じたコスト構造への転換
- ④ バランスシートにより軸足を置いた経営

Q：中期3カ年経営計画の目標の一つに、3年目に「営業利益10%以上」とあるが、どのように実現するつもりか？

A：固定費の抑制や変動費削減に加え、製品競争力の強化、高収益新規事業の創出を進めていきます。また、持株会社体制への移行に伴い、経営執行のスピードアップ、独立採算性の強化を図っていきます。